

令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 ひびきの 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和3年6～7月に、5年生を対象として、「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。運動習慣は、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本年度、本市においては「体力・運動能力」についての調査は実施していません。

1. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

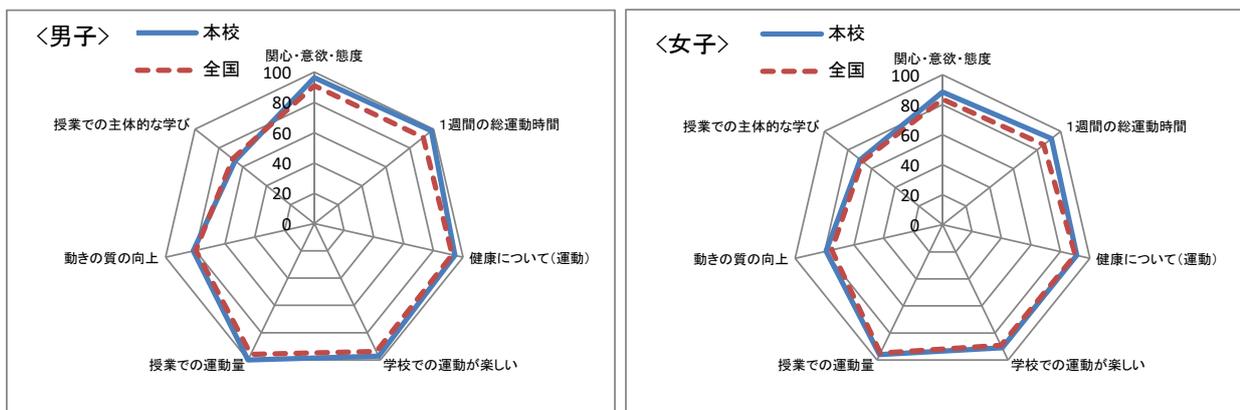
2. 本市における調査内容

- (1) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

多くのアンケート項目で全国平均より上回っており、児童の運動・体育への意欲が高いことがわかった。今後もこの意欲を継続させながら、体力向上を目指す必要がある。そのためには、動きのコツがつかめるよう指導方法を工夫し、できなかった運動ができるようになる体験を重ねることで、運動への興味を高めさせ、日頃の運動に取り組む時間の増加へと繋げ、児童の体力を向上させていきたい。また授業でも様々な運動に挑戦し、技を習得したり、仲間と協力しながら活動したりすることにより、達成感や充実感を味わわせることが運動へのさらなる関心や体力向上において重要と考える。これらのことを念頭に置きながら、今後の授業内容や指導方法を構築していく。

4. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

一昨年、立ち幅跳び、50m走、シャトルランの記録が思わしくない結果であったことから、授業はじめのウォーミングアップの中で、瞬発力を鍛えるジャンプ運動、全身持久力やスピードを鍛える走る運動を毎回入れるようにしている。1年間、継続して取り組んでいるので、動きの中で少しずつ力がついてきていると感じる。しかし今年では体力・運動能力調査を行ってないため、明確なデータはないため、来年度も引き続き取り組んでいく。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

- ・全校で2学期後半から3学期に持久走・縄跳びの取組を行い、持久力向上と基礎体力づくりを行っている。
- ・持久走の記録や順位、縄跳びで身についた技能をノートやプリントにまとめ、保護者も見ることができるようにしている。
- ・コロナウイルスの感染拡大が収まれば、休み時間を使った縄跳び週間を実施し、日頃から運動する習慣が身に着くような取組を計画している。